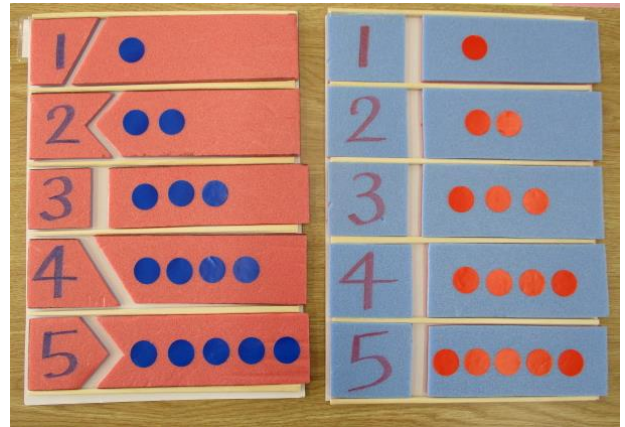


主に関係する 領域・教科	算数	氏名：道下真優子
教材・教具名	数字とかずのマッチング	
ねらい	数字に合った数量が分かる	
<b>授業の説明、単元設定の理由</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1～10の数字の読み、1～10までの数字の順番は理解している児童に対し、次の段階として1～5程度の量感や、数字と数量のマッチングができるようになったらいいなと思い、作成した。</li> <li>・ いきなり数量を並べるのは難しいと思ったので、2段階の教材を準備した。写真左は数量のボードの端の形がバラバラで、その形もヒントに考えることができる。写真右は数量のボード端の形がすべて同じになっており、シールの数のみをみて考える教材になっている。</li> </ul>		
制作のポイント		使用材料・部品
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数量のボードの端の形を変えて、2種類用意したことで児童の理解に合わせて使い分けられる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カラーボード</li> <li>・ 丸シール</li> <li>・ A4厚紙</li> <li>・ 割りばし</li> </ul>



実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学期中では、写真左のほうの教材を使い、シールの数を見るというよりは、ボードの端の形を見て形合わせをしていた。全部並べた後に、シールを指差ししながら「1、2、…」と一緒に数えた。</li> <li>・ 2学期からは写真右の教材も少しずつ使っていく予定。</li> </ul>
効果・改善点等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学期おわりごろになると、すばやく並べることができるようになった。</li> <li>・ 初めは、教材自体を割りばしなしで使っていたが、児童がボードを形合わせした際に少し動くとずれてしまうのが気になり、ときどきいやになることがあったので、他の先生方からアドバイスをいただき、隙間に割りばしを挟んだことでずれなくなった。</li> </ul>